

# ONS 15454 4.5.x 以前の NE を CTM 5.x 以降に対応させるための設定

## 目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[背景説明](#)

[問題](#)

[解決策](#)

[確認](#)

[関連情報](#)

## 概要

このドキュメントでは、ONS 15454 4.5.x 以前を使用してネットワーク要素 ( NE ) を設定する方法について説明します。 NE 設定により、Cisco Transport Manager ( CTM ) バージョン 5.x 以降において、CTM 5.x 以前のバージョンで以前に設定されたゲートウェイ ネットワーク エlement ( GNE ) とエンドポイントの関係の認識が可能になります。

## 前提条件

### 要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Cisco ONS 15454
- CTM

### 使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Cisco ONS 15454 バージョン 4.5.x 以前
- CTM バージョン 5.x 以降

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな ( デフォルト ) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

## 表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

## 背景説明

シスコは、CTM 5.x 以降で、CTM が GNE およびエンドポイント NE の関係を認識する方法を変更しました。

CTM 5.x より前のバージョンでは、CTC ベース NE のプロキシ設定に関係なく、ネットワークトポロジに基づいて、ユーザが GNE およびエンドポイント NE を手動で設定します。

CTM 5.x 以降では、GNE およびエンドポイント NE を手動設定する機能は使用できません。CTM は、NE の GNE プロキシ設定に基づいて、GNE を自動的に選択します。CTM には、NE の状態に関して、次の 3 つの新しい分類があります。

- ゲートウェイ ネットワーク要素 ( GNE )
- 外部ネットワーク要素 ( ENE )
- LAN 接続要素 ( LNE )

CTM 5.0 では、プロキシを有効にしていないすべての NE は、物理 LAN 接続がない場合でも、LNE のラベルを持ちます。システムは、有効になっているプロキシを持つすべての NE を GNE と見なします。これは特に、追加のエンドポイント NE 設定オプションのない、CTC 4.5.x より前のバージョンの NE に当てはまります。

## 問題

CTC 4.5.x 以前から CTM 5.x 以降にアップグレードまたは追加しようとする、次の問題が発生します。

1. CTM の GNE、LNE、および ENE に関して、NE の正しくないラベルが表示されます。
2. CTM は NE の一部の状態を検出できません。たとえば、**使用不可**という通信状態ラベルがあり、これは CTM が NE への接続を確立できないことを意味します。

## 解決策

これらの問題を解決するには、次の手順を実行します。

注: この手順は最初にネットワーク内の小さなリングでテストしてください。結果に問題がなければ、ネットワークの残りの部分に手順を展開できます。

1. GNE のプロキシを有効にします。次の手順を実行します。CTC にログインします。  
[Provisioning] > [Network] > [General] をクリックします。[Gateway Settings] セクションの [Enable Proxy] チェックボックスをオンにします ( [図 1 の矢印 A を参照](#) )。 **図 1 – ゲートウェイのネットワーク要素の設定**
2. 各エンドポイント NE のデフォルト ルートを 0.0.0.0 に設定し、次の設定を有効にします。プロキシクラフト アクセスのみファイアウォール注: CTM からリング内のすべてのノードが完全見えるように、3 つのオプションをすべて有効にする必要があります。次の手順を実行します。CTC にログインします。[Provisioning] > [Network] > [General] をクリックします

。図 2 – エンドポイントのネットワーク要素の設定[Enable Proxy] チェックボックスをオンにします ( [図 2 の矢印 A を参照](#) )。[Craft Access Only] チェックボックスをオンにします ( [図 2 の矢印 B を参照](#) )。[Enable Firewall] チェックボックスをオンにします ( [図 2 の矢印 C を参照](#) )。[Default Router] フィールドに 0.0.0.0 と入力して、デフォルト ルータの IP アドレスを 0.0.0.0 に設定します ( [図 2 の矢印 D を参照](#) )。注: 現場の技術者は、TCC2 イーサネット インターフェイスを介して NE に直接接続すると、CTC 経由でリング全体を見ることができます。手順をネットワーク全体に展開する前に、テストがこの側面を対象にすることを確認します。

## **確認**

NE の設定に基づいた GNE-ENE 設定を示す CTM ドメインを次に示します。

- 10.89.238.77 ( Imperial Palace .77 ) は GNE として表示されます ( [図 3 の矢印 A を参照](#) )。緑色のチェックマークは Imperial Palace .77 が GNE であることを示します。
- 10.89.238.241 ( Imperial Palace .241 ) は ENE として表示されます ( [図 3 の矢印 B を参照](#) )。緑色のチェックマークは Imperial Palace .241 が ENE であることを示します。

### **図 3 – CTM**

## **関連情報**

- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)